



町史に残る17代横綱 小錦八十吉

遺跡や小錦への 嘆きが通じる

昭和39年ごろでしたか、刀剣に高度の趣味を持たれ、相撲史などにも造詣の深かった押尾喜世治さんが役場に見えられ「横

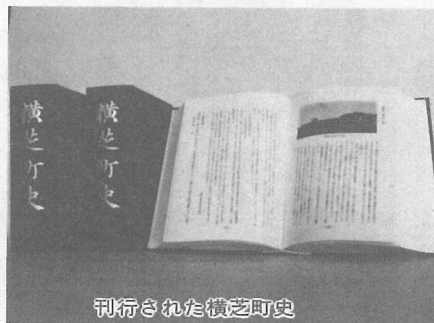
生方や編さん委員の方々のお力添えがあったことは申し上げるまでもないことですが、町史編さんのきっかけを作った「史談会」の方々の存在も忘れてはいけないと思います。
横芝町史の「あとがき」にも記されていますし、1267ページに顧問として、史談会会長押尾喜世治さん(故人)のお名前が見えていますが、町史発刊に至るまでには、この史談会の影響が極めて大きかったのです。

奉献の魚から食卓の味へ

サケ 既に1、353尾を捕獲

退職以来既に10年、元来世事には疎かった私の目や耳に入る話は、すぐそばを流れる栗山川の「鮭湖上」のニュースです。
昭和52年以来、毎年稚魚の放流を続けている(右ページ上写真)栗山川に、55年以來その稚魚の回帰が始まっています。
この栗山川の上流では、昔から時おり鮭が捕獲され、山倉大明神に奉献された、という事例が伝えられていますが、広報で報じられる湖上数などから、いつかは栗山川の鮭が「奉献の魚」

芝町の殿塚や姫塚が芝山町で管理されているし、横芝町から小錦という横綱が出ていることも知らない人が多い。これでもいいのだろうか——と、当時広報を担当していた私に話し出されました。ちょうどその時、上堺村時代に海保忠さんが手がけて作られた、観光用のチラシを見ていましたので「早速地区ごとにしかるべき人を探して、声をかけてみます」とお答えをしたのです。
そして、上堺地区に海保忠さん、大総地区に大木竹さん(故



刊行された横芝町史

人)横芝地区に土屋源吾さんらに、押尾さん名義で呼びかけ(一)から「食卓の魚」になる日も夢ではないと思います。
昨年の10月ごろ、栗山川の水門下で、背びれを水面に出してさかのぼる2匹の魚を見かけました。この川には、俗に川ますと呼ばれる、釣人に嫌われる大型の魚が生息しているので、その魚かと思いましたが、ちょうど居合わせた関係者の方から、これが鮭の湖上の姿であると聞かされました。
話には聞いていても、初めて見たその光景は、ただ感激の一



来町した沼田知事(左)と語る佐瀬町長(右) 昭和57年

言に尽きるものでした。そして広報で見た「母なる川・栗山川」の見出しが、まぶたをよぎるのでした。(おわり)

たところ、どの方も大賛成で、土屋さん宅で「横芝町史談会」を結成し「研究などという難しいことは一切抜きにして、古老の方から旧来の慣習や行事の由来を聞いて記録しておき、次の会合で発表し合う」などのことを話し合ったのです。
そして地道な歩みが続けるうちに、次第にその存在が認められてくるとともに、町内にも歴史に対する関心が高まり、「町史編さん」の機運が作られたと言っても過言ではないと思います。

11 栗山川で初のサケ採捕 冷夏のため東北地方大凶作、銀座でタクシー運転手一億円入りの包み拾い話題沸騰	56年 中台に農村広場完成 農村整備モデル事業始動 経済低成長が続く、行政改革の論議が白熱	57年 沼田知事来町、開発予定地などを視察 騒音区域見直しで新たに牛熊・長倉の一部が編入 海洋センターオープン 横芝町で郡市民体育大会 行政懇談会スタート カラオケブーム	58年 町議会議員20年ぶりの大選挙区制選挙 文化会館落成 秋田沖に大津波、日本の離婚件数史上最高	59年 16年ぶりの大雪 初めての県民の日 産業開発道路工事着工 大手食品メーカーへの脅迫事件、長野県に大地震			
--	--	--	--	--	--	--	--